

平成 27 年度シンポジウム

ペットとのふれあい活動の推進方策を考える

〈日時〉

平成 28 年 3 月 16 日 (水)

13:30~16:30

〈場所〉

東洋大学白山キャンパス 8 号館

7 階 125 周年記念ホール

東洋大学国際観光学科
公益社団法人日本愛玩動物協会
全国ペット・ツーリズム連絡協議会
ペットの文化とみらいを考えるプロジェクト

プログラム

13:30～

基調講演

- ・「人とペットが共生する社会の実現に向けて」
環境省自然環境局動物愛護管理室長 則久 雅司

14:00～

事例発表講演

- ・「東京都獣医師会が取り組む、学校飼育動物事業について」
公益社団法人東京都獣医師会 理事 中川 清志
- ・「ふれあい活動における認知浸透の施策について」
ナチュラルドッグスタイル 代表理事 薦田 由美
- ・「名古屋市動物愛護センターにおける取り組みについて」
名古屋市動物愛護センター 所長 石川 登紀子
- ・「ふれあい活動を支える人材育成について」
東洋大学国際地域学部教授
公益社団法人日本愛玩動物協会会長 東海林 克彦

15:30～

ペットツーリズムの推進活動の優秀事例紹介

- ・「ペットツーリズム大賞について」
全国ペットツーリズム協議会/ぐらんぱう社長 藤野 宇一郎

15:45～

パネルディスカッション

- コーディネーター 西武ペットケア 代表取締役社長
日本ペットサロン協会理事長 田中 健司

16:30

閉会

17:00～

懇親会 (希望者のみ、会費制 3000 円)

* プログラムは一部変更となる場合がございます

「人とペットが共生する社会の実現に向けて」

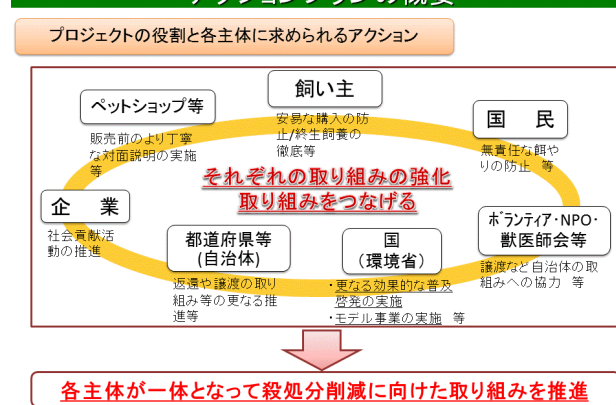
環境省自然環境局動物愛護管理室長 則久雅司

平成 24 年 9 月の動物愛護管理法の改正では、法目的に「人と動物が共生する社会の実現」が盛り込まれた。環境省では、平成 26 年 6 月に、「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」を立ち上げ、「命を大切にし、やさしさあふれる人と動物が共生する社会の実現を目標に、殺処分をできる限り減らし、最終的にはゼロにすることを目指すことを目的とする」アクションプランを発表した。本事業では、殺処分をなくするためのポイントとして、①飼い主等に関する普及啓発を徹底し、飼い主等の意識向上を図る。②飼い主等からの引取り数を減らす。③引き取った犬猫の飼い主への返還や希望者への譲渡数を増やす、の 3 点を掲げ、各地の自治体と連携したモデル事業を実施し、その成果をガイドラインとしてとりまとめ、広く公表していくこととしている。

ただ、本プロジェクトが、将来的に殺処分を行わなくて良いような社会にすることを主眼に置いたものであるため、「人と動物が共生する社会」づくりとは、殺処分の問題だけとのイメージを与えている面が否めない。動物は「命あるもの」であり、命の尊厳を尊重することは言うまでもないが、人と動物が共生する社会を実現するには、殺処分問題以外にも多岐にわたる課題があることから、将来のあるべき姿・ビジョンを多くの関係者で共有しながら、連携しながら取り組んでいく必要がある。

なお、環境省では、「人と自然が共生する社会の実現」という政策目標も掲げている。「人と動物が共生する社会」という概念も「人と自然が共生する社会」にならって打ち出された目標であるが、この「自然との共生」という概念は、自然や動物を人間のための資源と捉える西洋的な自然観ではなく、日本の伝統的な自然観に根ざした理念であるとされている。つまり、「人と動物が共生する社会」の実現に際しても、日本ならではの自然観・動物観を踏まえていくことが重要になる。


人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト アクションプランの概要



意識(動物観)の違いに関する欧州諸国との比較

我が国における近世の動物愛護思想は欧米人によって主導されてきた経緯があるが、欧米諸国に比べて我が国の動物愛護管理が内容的に劣っていたわけではなく、文化・宗教・自然環境が異なることにより、動物に対する意識の違いが大きく影響していたことが指摘されている。

		日本	欧米等
人と動物との関係	位置関係	基本的に異なる世界に存在	同一の世界に存在
	階層関係	人間と生命的には平等(ただし、相対的価値としては人間が優位)。輪廻転生によって人間と動物は相互転換する生命的に連続的な存在。	人間とは別の生命体であり、人間の従属物。人間のために存在し、人間が管理すべき責任を持っている存在。
対象動物		ペット等が中心。	畜産動物や使役動物が中心。
飼養技術		生産性の豊かな稲作中心の文化等を背景に、十分に発達・普及せず。	生産性の乏しい自然・牧畜中心の文化等を背景に、発達・普及。
態度		情緒的・放任的な性格が強い。	合理的・科学的・操作的な性格が強い。



則久 雅司

1992 年環境庁入庁。大山隠岐国立公園等でのレンジャー業務、本省において自然公園法改正、外来生物法制定等に関わった後、釧路自然環境事務所において野生動物行政や世界遺産行政に従事。2011 年 7 月からは鹿児島県に出向し、自然保護課長に就任。2015 年 7 月より現職

東京都獣医師会が取り組む、学校飼育動物事業について

(公社) 東京都獣医師会 理事 中川清志

小学校学習指導要領生活編において、小学校 1, 2 年生での継続的な動物飼育を実施することが求められている。同解説には、以下の様に記載されている。

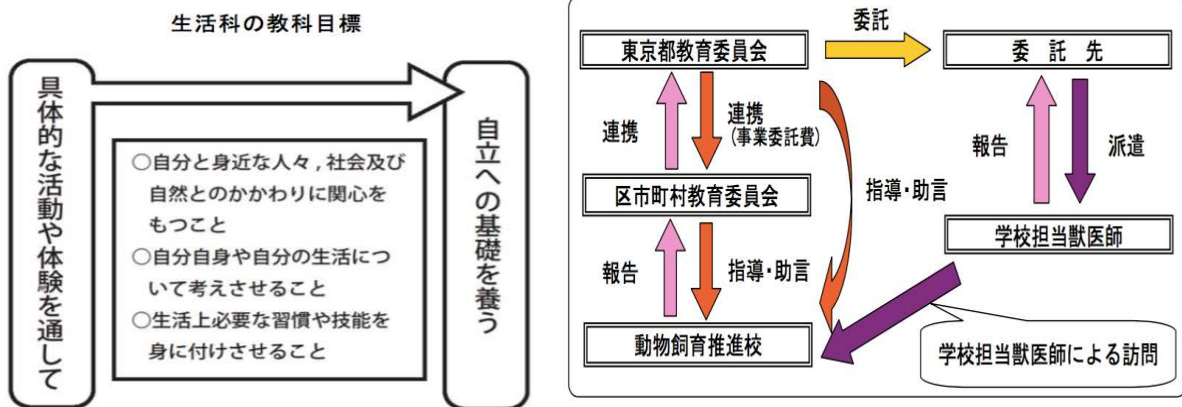
「小屋の掃除をしました。おしっこやうんちがいっぱいありました。だけどぼくはシロちゃんが大好きです。シロちゃんを大事にしたいから、小屋をきれいにするお仕事をしました。ぼくはシロちゃんから、がんばる心と優しい心をプレゼントしてもらいました」。

ここには、動物が生命をもって生きていることや動物と自分とのかかわり方に対する気付きがある。がんばった自分、優しく接することができた自分自身にも気付いている。このような児童の姿が生まれるためには、繰り返し動植物とかかわる息の長い活動を設定することが大切である。継続的な活動をすることによって、親しみの気持ちが生まれ、責任感が育ち、生命の尊さも感じることができる。また、自分本位の見方・考え方から、動植物の立場に立った見方・考え方ができるようになり、気付きの質の高まりも期待できる。」 「その際、専門的な知識をもった地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携して、よりよい体験を与える環境を整える必要がある。」引用終わり

このような背景から、東京都教育委員会（以下、都教委）は、(公社) 東京都獣医師会（以下、本会）と連携をとり、平成 26 年 5 月に地域教育支援部義務教育課から「学校飼育動物にかかる獣医師を活用するためのガイドライン」を示した。また、本会は平成 26・27 年度の 2 カ年にわたり、都教委が実施する「小学校動物飼育推進校」事業に参画している。

小学校担当教諭が、「児童がくり返し動植物と係わる息の長い活動」を不安無く実施し、児童が愛着心を持った飼育を行うためには、獣医師による学年開始時の飼育指導のみならず、教諭との日常的な連絡を行う事による飼育動物の健康管理が必要とされる。本講演では、本会の活動概略、本事業の背景、都教委と本会との現在の連携並びに実際に小学校で実施されている活動について概説する

8 実施体系



中川清志



獣医師，博士（獣医学）。

97.03 日本獣医畜産大学卒業 11.03 日本獣医生命科学大学大学院研究修了

03～東京都獣医師会 北多摩支部西東京市獣医師会学校担当獣医師

14～同会理事（狂犬病・学校飼育動物・小笠原自然環境保護 担当）

15～日本獣医師会 学校飼育動物支援対策検討委員会委員

「ふれあい活動における認知浸透の施策について」

(一社) ナチュラルドッグスタイル 代表理事 薦田由美子

ナチュラルドッグスタイルは、2007年よりイベントやセミナーなどを通じ、ペットオーナーマナー向上の啓発やペット適正飼育のための情報を発信。2014年より文部科学省・環境省の後援を受け、ふれあい活動「こども笑顔のラインプロジェクト」を全国の国公立の小学校1～6年生を対象に、生活科や道徳の授業で、セラピードッグや補助犬など様々な犬を通じた体験授業を行っている。

動物とふれあう機会が少ない子どもが増えている昨今、いじめ・不登校・暴力など、子どもたちを取り巻く様々な問題の解決やペット飼育環境及びペット文化向上のために、幼少期の動物とのふれあいが重要であることは、海外事例からも伺い知る事が出来る。

長い歴史を持つ“ふれあい活動”。この素晴らしい活動を1人でも多くの人に知ってもらい、動物の素晴らしさを伝えていくために、認知浸透は不可欠。

■ふれあい活動を一般に広く認知浸透させるための施策■

- ①協賛企業のCSR活動としてのプロモーション ※画像①
- ②多方面で活躍されている専門家によるプロモーション ※画像②
- ③大学機関との共同調査研究



画像①: 商業施設でのふれあい活動



画像②: イメージポスター制作

ペット文化はもちろんのこと、世界に誇れる日本の文化向上のために、幼少期から動物にふれあい、学習できる環境づくりを目指している。



薦田 由美

一般社団法人ナチュラルドッグスタイル 代表理事。ペットグッズの開発、ドッグブリーダーとオーナーとの仲介業を経て、2007年任意団体ナチュラルドッグスタイルを設立。2010年一般社団法人化。2015年10月代表理事に就任。

名古屋市動物愛護センターにおける取り組みについて

名古屋市動物愛護センター 石川 登紀子

名古屋市動物愛護センターは、昭和 60 年に、名古屋市の中心部から遠くない場所ながらも緑に囲まれた環境に、当時としては珍しい「動物愛護センター」の名称で、愛護館（啓発施設）と管理棟（抑留施設）が別々にある施設として開設されました。

それから 30 年、愛護館は「緑の中の人と動物のふれあいの場」として多くの方に親しまれ、毎週月曜日の休館日を除き、毎日開館し、犬猫とのふれあいを体験することが可能な施設となっています。隣接する管理棟での殺処分の現状を伝え、動物愛護と適正飼養を普及啓発するための教室・イベントの開催、犬猫の譲渡等も行っています。

また、最近では、更にいのちの尊さと犬猫と暮らす素晴らしさを普及するため、改修工事を行い、従来の展示物を撤去し、犬猫を展示する犬ルーム・猫ルームを新設し、「もの」の展示から「いのちある犬猫」の展示とし、平成 26 年 3 月にリニューアルオープンしました。

開設から約 20 年間は犬のふれあい広場に子犬を放してふれあいを行ってきましたが、現在では収容した犬・猫のうち、人と接することが好きで、適正があると思われる個体を「事業犬・猫」として育成しています。ふれあいの際には職員が付き添い、犬猫に負担がかからないように配慮しています。

ふれあい事業は、犬猫にただ触る「ふれる」と犬猫と心を通わせる「ふれあう」は違うことを伝え、正しいふれあい方を教示した後、屋外の「犬のふれあい広場」、屋内の「犬ルーム」「猫ルーム」において行っています。

また、所外でも行っており、小中学校の授業において、犬猫とのふれあいや心臓の音を聞いてもらうことなどを通じていのちの大切さについて学ぶ「いのちの教室」やボランティアと協働で高齢者福祉施設の方に犬とふれあっていただく動物介在活動など、様々な機会を通じて、犬猫とふれあう体験を提供しています。

今後は、ボランティアとの協働を推進し、より広くふれあい事業を展開することが課題となっています。



犬のふれあい広場



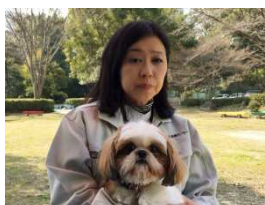
猫ルーム内でのふれあい



いのちの教室



動物介在活動



石川 登紀子

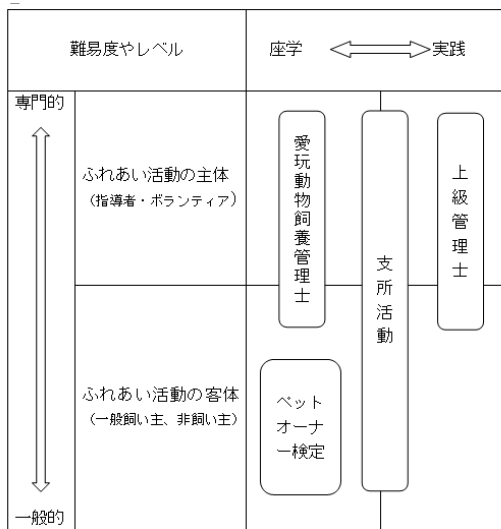
2004 年より名古屋市動物愛護センター愛護担当主査、
2010 年より名古屋市動物愛護センター所長。獣医師。

ふれあい活動を支える人材育成について

東洋大学国際地域学部教授・(公社)日本愛玩動物協会会長 東海林克彦

近年、生命尊重及び友愛の精神に満ちた「やさしい社会（道徳的社会）」の実現が求められているところですが、この実現に当たり「ペット飼養を通じた情操の涵養」は効果的な手段の一つであると考えられます。このような状況のもとで、ペットとのふれあい活動を推進するために、関係行政機関や公益社団法人日本愛玩動物協会を始めとする各種の民間団体によって、ペットとのふれあい活動及び愛玩動物飼養管理士などの人材育成が全国各地で行われていますが、こういった活動をさらに推進していくためには、とりわけ「ふれあい活動を支える人材育成」が重要になってくると考えられます。

ふれあい活動を支える人材育成といった場合、とかく高度な技術・能力水準を有した指導者の育成に目が行きがちですが、①ふれあい活動はありとあらゆる場所・分野・レベルで行われることが望ましいこと、また、②通常は企画・実施主体側の人材育成にばかり目が行きがちですが主体と客体の双方の状況が整ってこそそのふれあい活動であること、さらには、③地道な知見の集積と普及がふれあい活動全般の底上げになること等に注目して、今後の課題や講ずべき今後の事業についての各種提言を論説します。



日本愛玩動物協会における教育事業の総合的・体系的実施のイメージ

認知段階	Attention(認知・注意)
感情段階	Interest(興味・関心)
	Desire(欲求)
	Motive(動機)
行動段階	Action(行動)

A I D M A の法則

東海林克彦



東洋大学国際地域学部国際観光学科教授、(公社)日本愛玩動物協会会長。博士(農学)。1983年に環境庁(省)入庁、動物愛護管理室長などを歴任後、2007年より現職((公社)日本愛玩動物協会会長は2012年12月より)。専門は、観光レクリエーション計画論、景観論、環境評価論

パネルディスカッション・コーディネーター

株式会社 西武ペットケア 代表取締役社長
非営利一般社団法人 日本ペットサロン協会 理事長 田中 健司

会場からのご質問等を踏まえながら、田中コーディネーターのもとで、講演者全員によるパネルディスカッションを実施します。

田中 健司

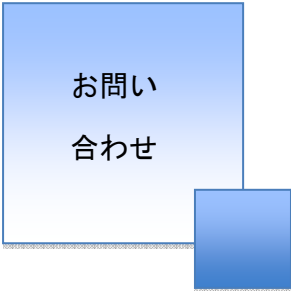


2003年にアドホック(株)(現:西武ペットケア)へ入社。

2007年に同社 代表取締役社長に就任。2008年より西武グループ傘下となる。「人とペットが共にすこやかに暮らすための環境づくり」をミッションとし、ペット共生マンションの企画コンサルティング、首都圏に17店舗展開するペットケアショップ「PET-SPA」の運営などの事業を推進する傍ら、2011年からスタートした西武グループ「ペットスマイルプロジェクト」のディレクションを行う。

また、2013年より日本初のペットサロンの業界団体である非営利一般社団法人日本ペットサロン協会の理事長を兼任。

愛犬はキャバリアのラッテ(14歳、♀)。



お問い合わせ

公益社団法人日本愛玩動物協会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 8-1

TEL. 03-3355-7855 FAX. 03-3355-7880

東洋大学国際地域学部国際観光学科